

暮らしを支える水

わたしたちが毎日使う水

飲む水やトイレで流す水、お風呂やせんたくなど、私たちのくらしは水なしでは考えられません。でも、じゃ口を開ければいつでも水が出る便利な生活を送っているわたしたちは、水の大切さを忘れがちです。



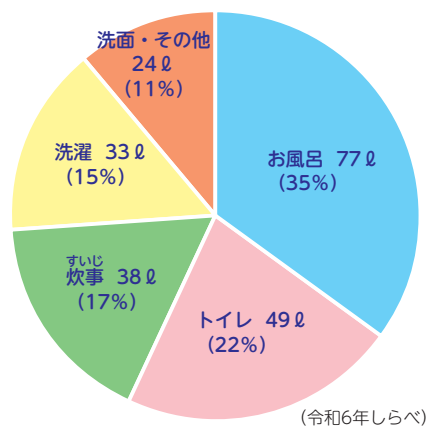
水はどこからくるの？

水の旅は、山や森にふった雨からはじまります。地面にしみこんだ雨は、森などにたくわえられ（これを「水源かん養林」といいます）、少しずつ川へ流れていきます。小さな川が集まって大きな川になり、やがて海へ流れていきます。海の水は太陽の力で蒸発し、雲になって、また雨として地上にふりそそぎます。このように、水は形を変えながら、終わることのない旅を続けています。



毎日どれくらいの水を使っているの？

ひとりの人が一日に家庭で使う水の量は、平均221リットルです。その内訳は…？



2リットル入り
ペットボトル110本分!!



水がきれいなよなご

大山山麓の恩恵

米子の水道は、地下深くからくみ上げた地下水を原水として利用しています。この水道水のふるさととは西日本最大級のブナの原生林が広がる大山山麓です。ブナの落ち葉が腐葉土として天然のフィルターとなり、長い年月をかけて雨水や雪解け水をろ過し、良質な地下水を育みます。ここからくみ上げた水を約18万人の人たちが使っています。



上下水道局の仕事

上下水道局には
いろいろな仕事があります

安全でおいしい 水づくりのために



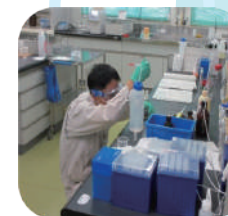
古くなった水道管を取りかえる
工事を行います。

水を安定して 届けるために



水道水が家に届くまで24時間、一日も休まず見守ります。

安心して水を 使ってもらうために



井戸からじゃ口まで、色々な
ところで水質検査をします。

事故がおこった 時のために



災害があった時、すぐにかきつけられる用意をしています。

水道のことを 知ってもらうために



水道の相談や申し込み、水道メーターの検針を行っています。

蛇口の奥のしくみ

①から⑥の順番で^{じゅんばん}水をとどけています

①雨や雪が降り注ぎます。

②地下深くしみ込んだ雨や雪は長い年月をかけてろ過され、地下水となります。

③井戸から水をくみ上げます。
(米子には12カ所の^{すいげんち}水源地、28カ所の井戸があります。)

④くみ上げられた水を調整池にためます。

⑤ポンプを使って消毒した水を高台の配水池に送ります。

⑥高低差を利用した自然流下方式で水を配ります。

みんなの家、学校、工場など

パッキン★マンの家

水道メーター

配水管

水道はいつからあるの？

よなごの水道の歴史

むかし、きれいな水に恵まれていた米子ではほとんどの人が井戸や近くの川の水を使っていました。しだいに人が増えるにつれ、水が汚れていき「コレラ」という伝染病が流行し多くの人がなくなりました。こうしたことから水道を作ってほしいという声が高まり、大正15（1926）年に米子市車尾に水源地ができました。昭和34（1959）年には境港市、昭和57（1982）年には日吉津村にも水を送るようになりました。現在では約18万人の人が米子の水道を利用しています。

クイズ1

去年、一年間で水が一番使われなかった日は何月何日でしょう？

クイズ2

大きな災害に備えておく飲み水の量は、1人1日何リットルでしょう？

1人1日：2リットル 日1日：1リットル 1人1日：3リットル